

6. その他の地域のグリーンジョブに関する具体事例

6. 1 長野県伊那市における自然と歴史文化を利用したエコツアー

1) エコツアーの実施

2013年9月22日、長谷・高遠地域の環境資源、文化・歴史資源、そしてそこで生活する人を訪ねるエコツアーを、3つのコースに分けて実施した。翌日は、参加者全員で各々のコースについて、よかった点や課題について話し合った。

① バイオマスコース

地元で森林保全活動や薪作りを実践する中山和文さんから、森林の現状や保全の難しさ、地元の環境資源を活用したバイオマス燃料等についてお話を聞いた。

中山さんは家具工房で家具作りをしながら、森林の整備事業や薪の会で薪ストーブの推進活動もしている。長谷の山はかつて大規模な植林が行なわれ、その結果、大規模な間伐が必要なほど木が密集して生えているため、現在、中山さんたちは政府や県の助成金をうけながら、この人口造林の間伐を行なっている。

間伐によって倒された木をそのままに放置しておく、他の木の生長の妨げになることから撤去する必要がある。そこで NPO 法人薪の会を立ち上げ、間伐によって倒された木を譲り受け、薪ストーブのエネルギー源として活用している。薪の会では、薪ストーブを奨励するために、ストーブの展示会を行なう機会も設けている。また近年は、大型の機械も導入し、地元住民に安くて質の良い薪を供給している。

今回は、活動の一連のお話を伺った後に、実際に山に入り現状を見学した。間伐されたままで倒れた木々が散乱している林、間伐前の写真と間伐後の実際の状況の見比べ、年に1ヶ月しか使用しないビニールハウスを活用した薪の乾燥工程、そして実際に大型の薪割り機での実演を見学した。



② 稲刈り・歌舞伎コース

稲刈り体験をした後、かつて農作業の後の楽しみだった村歌舞伎について伊那市役所の中村徳彦さんからお話を伺った。

稲刈りについては、機械の手の届かない田んぼの隅の部分のみ担当したが、稲を刈る感触や、刈った稲を束ねる難しさなど、普段味わうことのない感覚を体験することができた。また、収穫した稲を柵にかけて干す稲架掛け(はさかけ)も行なった。

その後、中尾の歌舞伎座に移動し、中尾歌舞伎の歴史についてのビデオを見た後、中村さんに歌舞伎座の中を案内して頂いた。化粧部屋から奈落と呼ばれる舞台下の空間、回り舞台など、普段はとても見られない所まで見学することができた。最後には、ご自身が歌舞伎役者でもある中村さんに、歌舞伎の終わりの挨拶を教わった。



② 遠町あるきコース

「高遠ぶらり」は、高遠城址公園を中心に巡るガイド付き高遠案内で、高遠町では既にプログラム化されている。ガイドの平賀さんは高遠図書館長だが、高遠が好きで数年前に東京から当地へ移り住み、図書館長を務めながら観光誘致の一策として、高遠の魅力を引出そうとご苦労されている。

高遠はサクラで有名だが、それ以外ではほとんど人の目を引かない。平成18年に町村合併で長谷村とともに伊那市に合併した。高遠地区の人口は約6,000人。そこにサクラの時期に40万人の人が押し寄せるが、サクラが終われば、次の春までは観光で立ち寄る人も少なくさびしい町になる。サクラ以外でも何とか人を呼べないかと、町おこしの課題として、

高遠町（現在は伊那市全体）で取り組んでいる。

「高遠ぶらり」は、この小さな町にとどまらない、我が国の近現代史に繋がる大きな歴史事跡を探索できるコースとなっている。高遠藩主保科正之は、2代将軍徳川秀忠の子で、後に会津藩主となるが、4代将軍家綱の補弼役として幕府を支えたという歴史もあり、徳川幕府の数代の歴史を学ぶことができる。

高遠藩の藩校「進徳館」は、教育県長野の評価の礎となっている多くの教育者を輩出している。東京師範学校長（現筑波大学）、東京音楽専門学校長（現東京芸術大学）等を歴任し、音楽教育あるいは聾啞者教育に足跡を残した伊沢修二、漱石の「坊ちゃん」の挿画を描いたことで有名な画家中村不折はいずれもこの進徳館の出である。

また、保科正之が預けられた高遠藩内藤家の江戸屋敷があった場所が内藤新宿で、その縁で現在でも、新宿区と高遠町は姉妹都市の関係にある。職員の交換交流や小中学校レベルでの交流も行なわれているほか、この繋がりでも、大規模災害時の相互支援体制をつくる協議も行われているという。



高遠町（旧城下町区域）



進徳館正門



灯籠祭りのご城下通り

③ ワークショップの実施

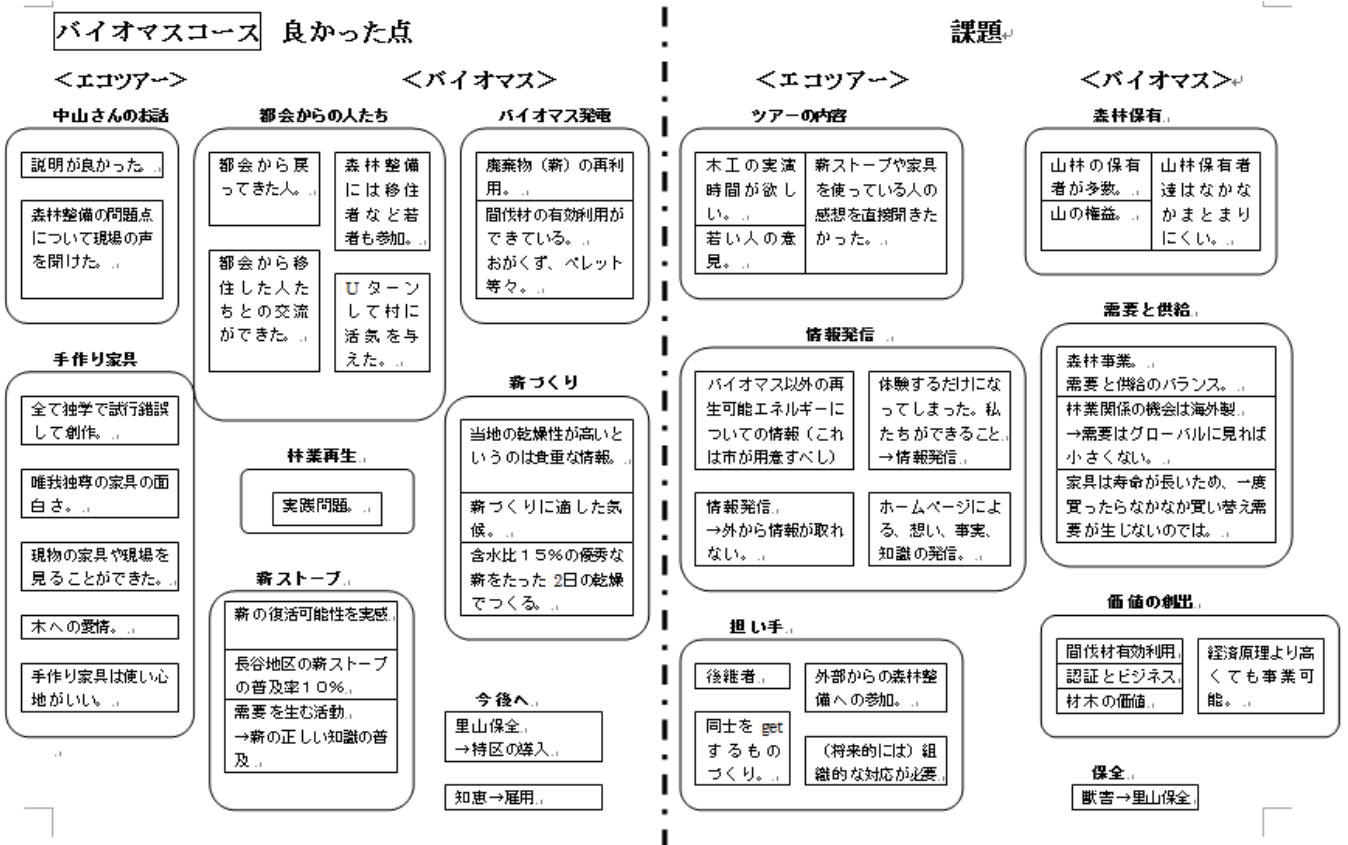
ワークショップでは、①森林・バイオマスコース、②稲刈り・中尾歌舞伎コース、③高遠歴史コースの3つのコースに分かれ、前日を振り返って良かった点、課題について意見を出し合った。どのグループも話し合いの時間が足りなくなるほどだった。



それぞれのグループごとに出た意見をまとめ、全員の前で発表し共有した。若年から年配の方までいろんな世代での交流、意見交換ができた。都市住民と地元住民など、普段は交流できない人とのディスカッションは、とても有意義な時間だった。

ワークショップの後半は「長谷・高遠のファンを増やす方法について」というテーマで、前半に出た意見も参考にしながら全体で話し合った。「雇用・後継者」、「PR・情報発信」、「エコツアーの充実」、「地域全体の取り組み」という観点から多くの意見がでた。

各コースに分かれての意見交換のまとめ



稲刈り&中尾かぶきコース

良かった点

いろんな世代

年代を超えた体験が可能。..
子どもが自由にのびのび過ごせた（周りの方の理解と協力）。..

自然とのふれあい

生き物（虫、両生類）に触れ合える。子どもに最適。..
むしとりが楽しかった。..
とのおさまパッタがした。..
虫取り（子ども、親子には◎）。..

実体験、初めての体験

日本人として、毎日の食事に欠かせないお米の収穫にすこしでも参加できてよかった。..
実際に鎌で刈り取る感覚が良かった。..
軽トラの荷台に乗れてよかった。..
稲刈りは新鮮な体験（関心ある人には◎）。..

食育

トマト嫌いのみっ君が無農薬のトマトを「おいしい」と食べていた。..
食材のありがたみが分かった。..
感謝の念。..
米の重さ（ありがたみ）を感じられる。..
お米への愛情。..
食育、自然体験。..

人の温かみ、ふれあい

人の温かみを身をもって知ることができた。..
(中村さん)のお母さん、地元の方とのふれあい。..

初めての中尾歌舞伎

珍しい体験コース。..
歌舞伎の祭りが見れて良かった。..
歌舞伎をみたいと思うようになった。..
歌舞伎を楽しみにしている方に応えたいという思いに感動した。..
テレビ、舞台上の世界が住民が演じているということで身近に感じることができる。..
ビデオコンパクトにまとまっていて分かりやすかった。..
伝統を復活させ続けている。..

課題

田植え～管理～稲刈りを一連で体験したい

田植え～管理～稲刈りの一連の体験がなかった。..
稲刈りの大変な部分までは体験できなかった。..
時間が短い。体は楽だが、それで良いのかは疑問。..

集落全体の課題

観光客参加型のイベントがあれば（益踊りの様な）→思い出に残る。..
知り合いがいらないと入りづらい。..
地元の方が関わる事→地元の方に負担？..
中尾集落全体ごとエコツアーに取り組み仕組み。..

歌舞伎存続の為に

市川団十郎の歴史が分かるコースが欲しい。..
後継者不足。..
歌舞伎体験のまねごとがしたい。..
歌舞伎の化粧や着付けが体験でき

アイデア

- セカンドハウス化、空き家を生かす。..
- レンタル農園（日帰り可）..
- 「長谷の親戚」制度とか。..
- ファン、FACE対FACE..
- 農業への若い力。..
- PR不足、口コミ。..
- 都会人や農業人、互いのニーズを満たす、価値の見直し。..
- 交通手段の確保。..
- 新市区とのネットワーク強化（親戚地域）。..
- 観光農園に発展する仕組み、稲刈りだけでなく、野菜やくだもの。..

高遠散策コース

良かった点

歴史、伝統文化

俳句

行灯の墨。..
絵+俳句（連歌）。..
俳句も財産。..
連句が盛ん。..
(嶋村) ..

産術

産術師。..
坂本式先進技術。..
坂本産術の存在。..
算術。..

進徳館。..
長野県教育の原点。..

高遠城の地割りが残っている。..

日本人の初電話通話。..
申す申す→もしもし。..

ぼんぼりの特徴をいかに。..

土地の人々

カクマン煎茶会。..
着物姿の女性が後者と洋菓子での茶会珍しい。300円。..

土地・祭への愛着。..

ゆかりの人

名君会津藩主、保科正之の若き日の預かり藩。..
伊沢修二の影響。..

これから...

史実の単発から、線・面への繋がる。..
引き出し、それを繋げる。..
テーマをもって。..

海外への目。..
(外へ向ける目) ..

過去の財産（風土）を未来に向けて。..

課題

外への発信（外部に向けて）

発信

タブレット端末を更に有効活用する。..
会津若松市環境協会は保険料100円で電動自転車を貸し出している

観光

副華豊富、主華不在。..
(いろいろな観光資源があるが、何が押しか?) ..

・不特定多数?・特定少数?..
集客方法の選択。..

新宿からバスで来られることをPR。..

連句

ここで連句会を開いてはどうか? ..

立教仙臺を活用し、全国連句協会に働きかけ。..

内側の課題

高齢化+畑の防護、→衰退化防げず。..

地元の若い人達が往復するときの公共交通利用の主体活動。..

過去との継りの豊富さはあるが、将来への継りの総出をする。..

職員が地元の歴史を知る機会を多くする。..

現在の生活基盤の確立。..
(農業、林業) ..

2) 今回のエコツアーの効果

① 環境資源の活用の観点から

- ・ 森林の状況や森林管理の現状・課題を知ることができた。
- ・ 荒れた森林も手入れし管理することで、再生可能エネルギーとしての利用価値が高まること、特にこの地域の材木は、燃料として良質でありエネルギー源として有効であることがわかった。
- ・ 都市住民に自らの生活と農業や林業とのつながりを実感してもらおうきっかけとなった。
 - 環境教育フィールド、あるいはボランティア活動の場としての可能性がある
 - 薪の会の活動などが広がれば雇用の可能性もある
- ・ 稲刈りの面白さ、子供にとっては昆虫や植物と触れ合う自然体験の絶好の場となった。

② 経済的効果

- ・ 見学先に、僅かではあるが謝礼を支払ったものの、経済的効果はほとんどなかった。但し、今後見学ルートを決め、参加者を広げ、参加料を徴収するような仕組みを整えば、僅かではあるが臨時的収入源となりうるのではないかと。
- ・ この地域の薪が良質であり、それを販売することで、わずかではあるが雇用や経済活動が生まれる可能性があることがわかった。

③ 人間・社会的効果

- ・ 当日講師となってくれた方は、訪問者を快く受け入れてくれるとともに、自らの活動に誇りを持ち、その重要性に気づくきっかけとなっていたようである。
- ・ また訪問者も地元でしっかり生きている人たちと出会うことで、力強さ、温かさといった人間的な魅力を感じ取っている。特に都会の若者にとっては、その感動はより高いようである。
- ・ こうした出会いが継続することで、互いの信頼関係が形成でき、「親戚」づきあいや雇用のきっかけにもなるのではないかと。
- ・ またこうした活動を地域全体に広げることで、地域の人たちが地域の価値地に気づき、地域活性化の一助になるのではないかと。